

# 震災復興とモビリティ・マネジメント

---

大阪大学大学院工学研究科

准教授 松村 暢彦

[matumura@mit.eng.osaka-u.ac.jp](mailto:matumura@mit.eng.osaka-u.ac.jp)

# モビリティ・マネジメントの位置づけ

---

- 交通問題は社会的ジレンマ
    - わかっちゃいるけど……
  
  - 社会的ジレンマの対処方法
    - 損得の構造を変える(バスの増便など)
    - 人の心に働きかける(モビリティ・マネジメント)
-

# モビリティ・マネジメントとは

---

- 一人ひとりのモビリティ(移動)が、  
社会にも個人にも  
望ましい方向に自発的に変化することを  
促す、コミュニケーションを中心とした  
交通施策
-

# 社会的ジレンマを乗り越える交通政策

	構造的アプローチ	心理的アプローチ
行政主導のガバナンス(ガバメント)	TDM LRT	<b>事例1</b> モビリティ・マネジメント(行政主体)
多様な主体の連携によるガバナンス(ガバナンス)	身の丈にあったバスの運行	<b>事例2</b> モビリティ・マネジメント(連携型)

# 事例1：転入者を対象にしたMM

---

- 対象・・・吹田市住民、転入者(523名)
  
  - 住民アンケートを実施
  - 転入者には転入届窓口にてアンケートを配布
  
  - 公共交通に関する情報を提供
    - 情報提供法群(情報提供法のみ)
    - 制御群(なにも情報提供をしない)
-

# 情報提供法

---

## □ 提供した情報

1. 最寄りの鉄道駅の時刻表

2. バス停の時刻表

家からの最寄りのバス停

最寄りの鉄道駅近くのバス停

よく行く買い物施設近くのバス停

3. 吹田市内でのバスの乗り方の手引き

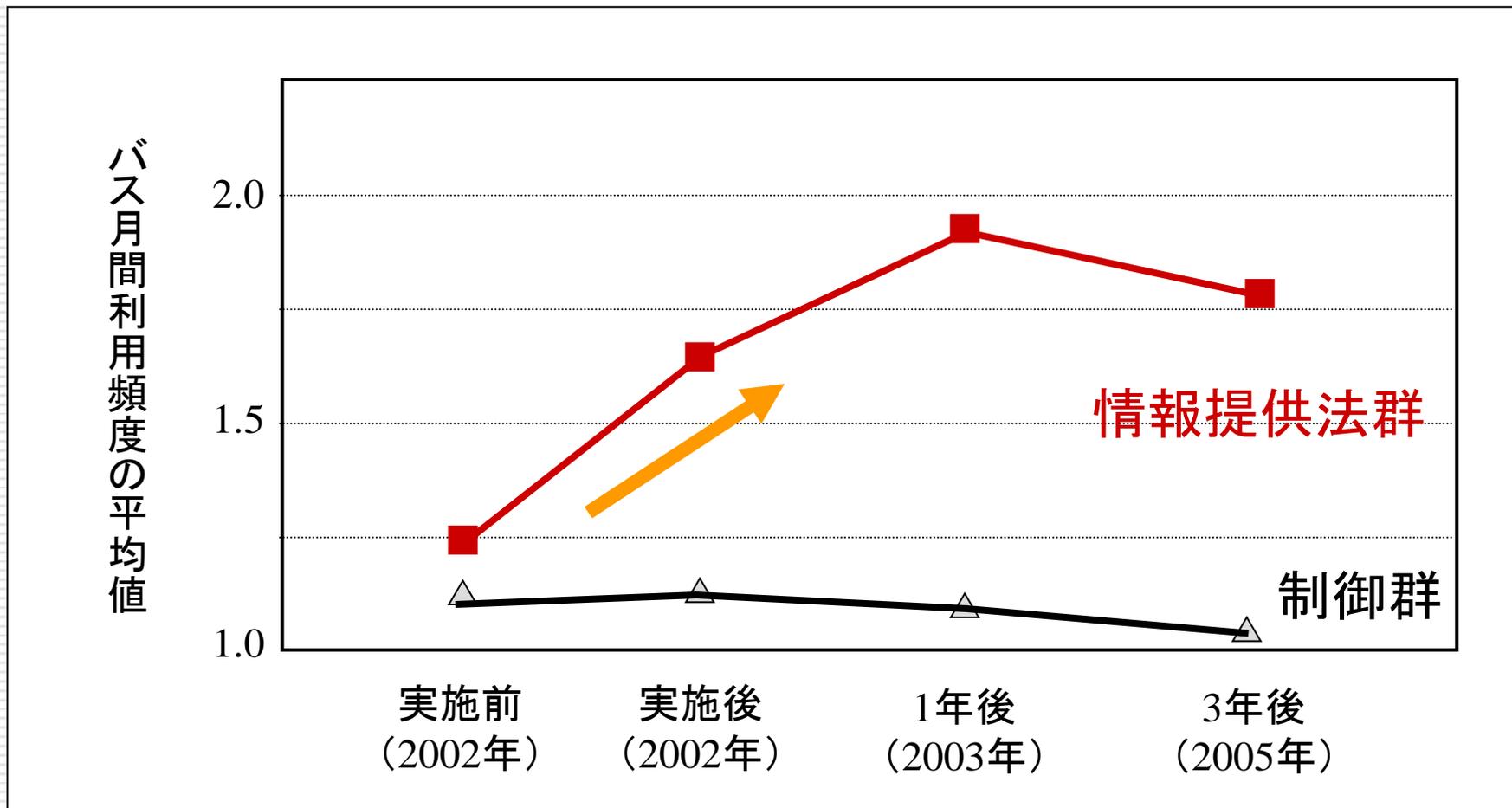
4. バスの路線図

5. 公共交通に関する情報を盛り込んだ地図

---

# バス利用頻度の変化

## ■ 転入者 ■



# 事例から得られる知見

---

- 必要な人に、必要なときに、必要な手段で、必要な場所で、必要なもの(情報)を提供する**モビリティ・マネジメント**は**有効かつ継続的**である。
-

# 事例2: イベントを活用したMM ～バスのってスタンプラリー～



- 大阪府枚方市樟葉地区・京都府八幡市男山地区
- NPO 法人 ひらかた環境ネットワーク会議による上下分離型バスタウンマップの作成
- バスタウンマップの作成とイベントの開催

# 位置づけ

---

04年 「くずは地域公共交通活性化総合プログラム」  
で市民参加型のバスマップ作成と利用促進

05年 ひらかた環境ネットワークで「くずは男山地区  
バスタウンマップ」を作成

多くの市民、バス利用者の参加

→自治会を通じたアンケート調査、ワークショップ

多様な視点からまちの情報を集めて紹介

→クリアファイルをつかったバスタウンマップの作成

→オーバーレイする情報地図

---

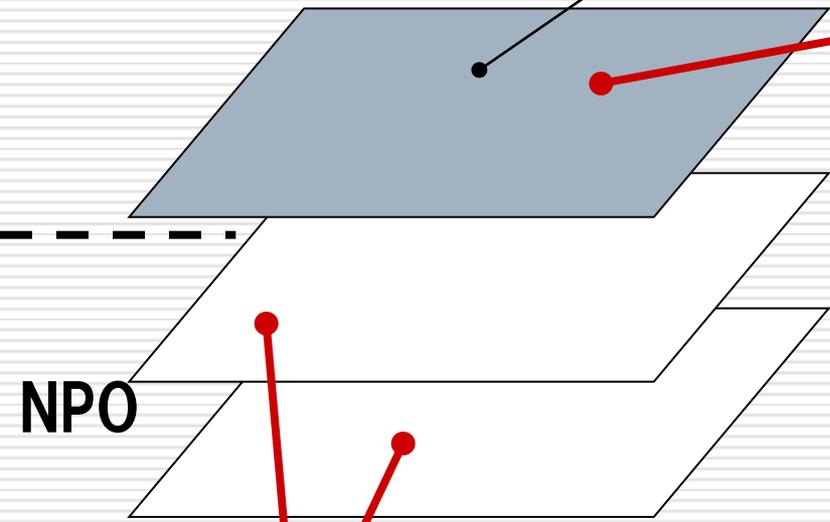
# 上下分離型バスタウンマップ



行政・交通事業者

クリアファイルなど透過素材で作成

公共で収集し公開すべき情報：プロダクト知（バス交通、公園など）



NPO

多数の参加をえて作成し公開すべき情報（店舗など）：公共的プロダクト知



# プロジェクトチーム(2005年～)

コアチーム

**NPO法人**  
ひらかた環境ネットワーク会議

行政

枚方市

大阪府枚方土木事務所

近畿運輸局

交通事業者

京阪バス

京阪電鉄

大学

大阪大学

連携

NPO団体

事業所

情報発信・連携

情報発信

自治会

小学校

住民

地縁  
組織

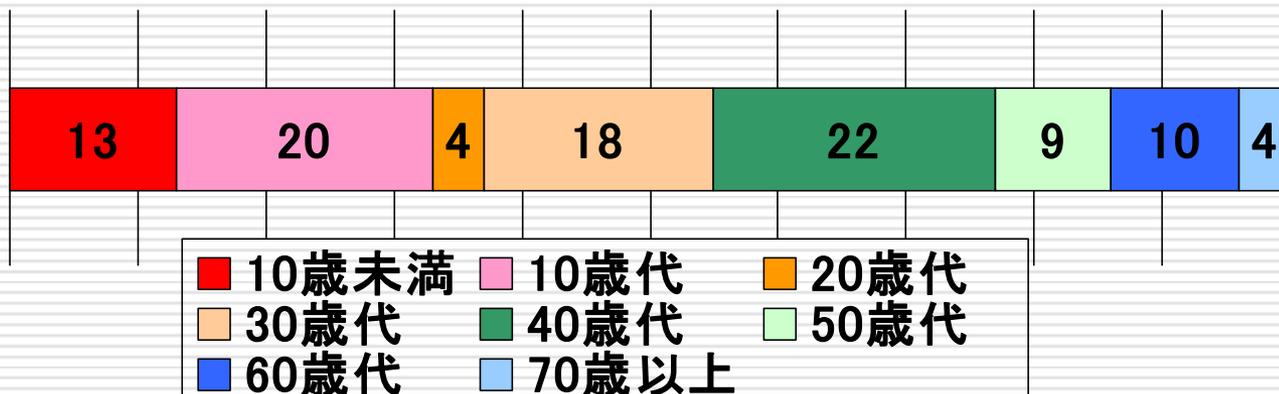
# バスのってスタンプラリー

---

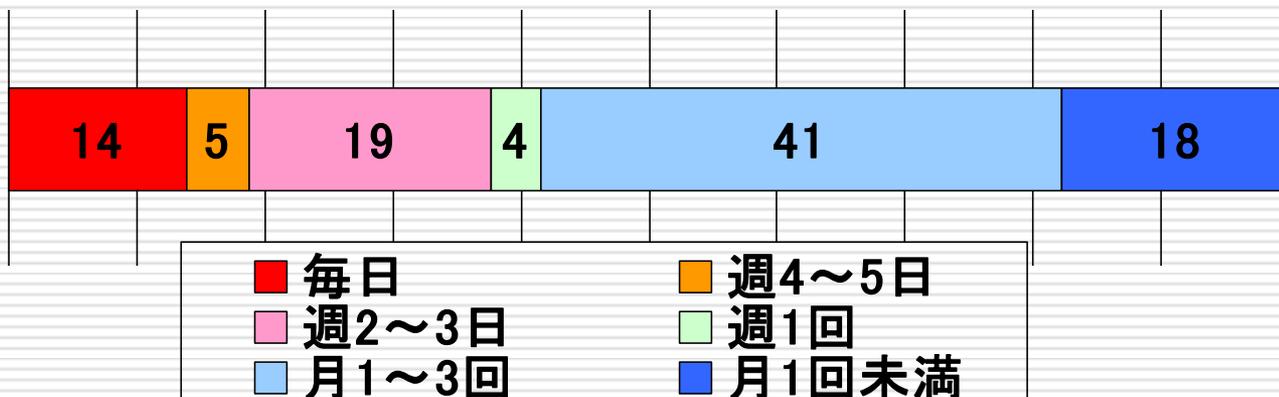
- 日時：平成18年3月26日（日）
  - 場所：大阪府枚方市くずは・京都府八幡市男山地区
  - 主催：NPO法人 ひらかた環境ネットワーク会議
  - 内容：バスのってスタンプラリー
  - 参加者：186名
  - スケジュール
    - 10:00 「まち」と「暮らし」と「バス」の話
    - 10:20 スタンプラリーの説明
    - 10:30 スタンプラリー開始
    - 15:30 集合・ビンゴゲーム
    - 16:00 終了
-

# 参加者アンケート

年齢

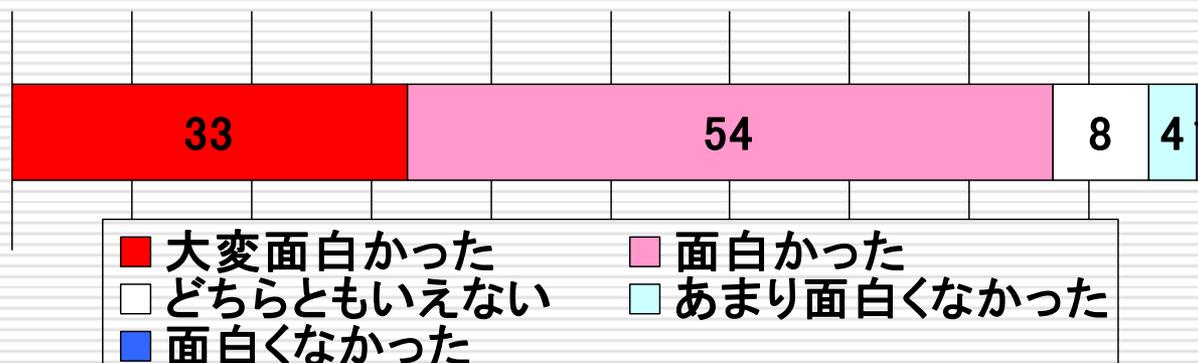


バス利用頻度



# 参加者アンケート

面白かった？



バスをもっと  
利用しよう  
と思った？



# バスのってスタンプラリー参加者数

	年月	場所	参加者数
第1回	06/03/26	樟葉男山地区【寺社・公園等】	186名
第2回	06/11/12	樟葉男山地区【店舗・寺社等】	126名
第3回	07/06/03	山田池公園【環境学習等】	130名
第4回	07/11/11	枚方市全域【枚方八景】	205名
第5回	08/04/06	枚方市全域【花見ポイント】	238名
第6回	08/10/25	枚方市東部【農業体験等】	126名
第7回	09/04/11	枚方・交野【花見ポイント】	143名
第8回	09/10/17	枚方市全域【ひらかたクイズ50問】	146名
第9回	10/04/12	枚方・寝屋川【花見ポイント】	246名
第10回	10/10/23	枚方市全域【ひらかたクイズ50問】	137名
第11回	11/04/02	枚方市全域【花見ポイント】	153名
第12回	11/11/05	枚方・交野【七夕物語ポイント】	130名
第13回	12/04/07	枚方【花見ポイント】	202名
第14回	12/10/20	枚方【～なぞの コトバを 探せ！～】	220名

# 事例からえられる知見

---

- 住民主体の取り組みとはいえ、**行政計画**で位置づけている（行政の役割も大）。
  - **多様な主体**の連携のもとで実施している。
  - 公共交通を使った“**暮らし**”を提案するイベントを**定期的**に続けている（交通に特化していない）。
-

# モビリティ・マネジメントとは

---

- 一人ひとりのモビリティ(移動)が、  
社会のありようにも個人の暮らしにも  
望ましい方向に自発的に変化することを  
促す、コミュニケーションを中心とした  
交通施策
-

# 豊かな社会と暮らしを実現するには・・・

---

□ まちをかえる

□ 私とまちのかかわりをかえる

■ モビリティ・マネジメント(行政主体)

□ 私たちとまちのかかわりをかえる

■ モビリティ・マネジメント(連携型)

---

# 社会的ジレンマを乗り越える交通政策

	構造的アプローチ	心理的アプローチ
行政主導のガバナンス(ガバメント)	まちをかえる	私とまちのかかわりをかえる
多様な主体の連携によるガバナンス(ガバナンス)	私たちとまちのかかわりをかえる	

# 地域住民による震災復興まちづくり

□ まちをかえる

□ 私とまちのかかわりをかえる

## 地域住民による地域再生

□ 私たちとまちのかかわりをかえる

コミュニティの再生を通して、つながり、にぎわい、ふれあいを取り戻す

# MMは震災復興に寄与できるのか

---

- MMが公共交通の利用促進を目的にしている限りにおいては(それほど)役に立たない
  
  - MMはつながり、ふれあいをもたらしてきた
    - 吹田市住民の方からはがき
    - イベントでのバスの車中
    - コミュニティバス車内のエピソード(箕面オレンジゆずるバス)
    - 高校進路の変更(京丹後市200円上限バス)
-

# MMは震災復興に寄与できるのか

---

- その具体例、**物語**を**拾って**、**共有**  
**する**ことが肝要
    - 偶発的、散発的、非標準的
  
  - ここにしかないMMこそが社会のありよう、個人の暮らし(震災復興)に寄与する
-

# まとめ

---

- MMの目標は、より豊かな社会のあり方、個人の暮らしにある。
  - MMはまちづくりの有用なアプローチ
    - 「私とまちのかかわりを変える」
    - 「私たちとまちのかかわりを変える」
  - ここにしかないMM(たとえば、人同士のつながり、ふれあいの物語を拾い、共有する)が震災復興に寄与する。
-